



HOPPY team TSUCHIYA
レース結果報告書
2024SUPER GT Rd.3 鈴鹿サーキット

日時	2024年6月1-2日	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	鈴鹿サーキット	■ゼッケン	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	菅波冬悟／松井孝允／佐藤公哉
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 22位／決勝 18位

現状打破を目指した鈴鹿

タイヤのマッチング含め、改善を要す結果に

6月1、2日、三重・鈴鹿サーキットにおいて、SUPER GT 第3戦「SUZUKA GT 3Hours RACE」が行なわれた。今なお進化を続ける No.25 HOPPY Schatz GR Supra は、予選 22 位から長丁場の戦いに臨み、18 位でレースを終えている。

ご機嫌いかがですか、ホピ子です。早くも開幕から3戦目を迎える今シーズンですが、舞台は鈴鹿サーキット。昨シーズンは第3戦で予選5位という結果が出ているだけに、今回も結構いけるんじゃない!? なんてほのかな期待を抱いて現場に入りました。開幕の岡山、そして富士を戦うなか、やるべきことにフォーカスして前進しているという自負はあるんですが、レースという戦いの場にいる以上は、自分たちの取り組みに対して必ず”結果”、つまり順位が伴うわけで……。そこがシビアであり、それこそがレースなんです。そういう諸々の状況もぜーんぶひっくるめて、とにかくコツコツ頑張っていますので、その積み重ねが結実することを今は信じるのみ、で邁進しています!

鈴鹿は搬入日にちょっと雨が降って、土曜日の予選はぐんぐん気温が上がる初夏の陽気でした。午前9時45分、気温25度、路面温度34度のコンディションの下で公式練習がスタート。セッション終了までに気温は28度、路面温度は46度まで上がりました。まずは菅波冬悟くんがホピ子の状態をチェックします。15分経つと、定期的にピットインを繰り返し、調整、また調整という感じに。GT500クラスとの混走中に、松井孝允くんもコースへ。とはいえ、アウトラップからインラップを含めてわずか4周だったので、アタックシミュレーションをやった、ってことですね。その後も冬悟くんは頻りにピットインしてクルマ作りの作業に奮闘していました。チームベストタイムはセッション序盤に冬悟くんがマークした2分02秒405。ポジションは26番手でした。

今回も前回の富士戦と同様の3時間レース。SUPER GTの鈴鹿で時間制レースを開催するのは初めてのこと。昨シーズンの第3戦はレース終盤に赤旗になった大荒れの展開だったので、参考にするのは難しいのだけれど、富士戦と同じようにレースが進むと仮定すれば、だいたいGT500のトップ車両が90周から93周を走行する感じかな!? 予選日と変わらず、決勝日も強い日差しでタフな戦いになるかと最初は思ったけど、どうやらそんな感じではなさそう……。週間天気予報とにらめっこしてたら、どんどん雨模様が変わっていくじゃないですかっ! 確かに、沖縄をはじめとした一部の地方が梅雨入りしたけど、鈴鹿はまだ先の話だと思っていただけに、ちょっと心配。加えて雨量が1ミリとか2ミリとか、なんかとっても“ビミョー”なんですよね。気温が高くて霧雨みたいな天気だと、ウェットタイヤでの走行がかえって難しくなることもあるわけで。タイヤの特性やらコースコン

ディション、そして気温……いくつもの条件がどう合わさるかによって、どうなるのやら。難しいレースになることだけは間違いないでしょうね。だからこそ、ミスなくしっかり安定したレース運びを見せないと！ いつも以上に気持ちが引き締まった感じです。

そして、3時間レースなので……。そう！ 今回も佐藤公哉くんが第3ドライバーとしてエントリー。公式練習のあと、コース上ではFCYとサーキットサファリのセッションが行なわれたので、このタイミングで公哉くんがドライブ。ところが、観光バスと一緒にコースで走行するサーキットサファリ中にホピ子、デグナー2つ目を立ち上がったときに調子が悪くなって(汗)。公哉くんは、駆動を感じなくなったホピ子をなんとかピットまで戻そうと走ってたんだけど、ホピ子が踏ん張りきれず……。結局ヘアピンのアプローチの右側で止めちゃったんですよね。場内アナウンスでは「おっと！ 駆動系か!?!」なんて言われちゃったけど、実際はそうじゃなくて、コンプレッサーが不具合を起こしてしまったんです。どうにもならなくて、動けなくなりました。コース上のみなさん、失礼しました。公哉くんも結局全然走れなくてごめんね。

大きなトラブルではなく、その後予選に向けて修復作業を済ませたホピ子。無事に午後3時から予選にはリカバリーができました。みなさん、ご心配をおかけしました。ホピ子はQ1・A組に出走するので、午後3時18分からのセッションです。与えられた時間は10分。アタックを担当するのは、今朝からホピ子を仕上げようと奮闘中の冬悟くん。気温は26度、路面温度は45度まで上昇しました。さあ、いよいよアタック開始です！

実のところ、チームそしてドライバーのみんなが装着しているタイヤとホピ子とのマッチングをすごく気にしていました。確かに朝からタイムが思うほど出てなかったし。「パフォーマンスが足りない」って冬悟くんが言っていたことを受けて、チームが予選に向けて大きく調整をしてくれたけど、コースに出たらどうなるか。実は、第2戦富士のあと、鈴鹿でGTE(GT エントラント協会)主催のGT300 専有テストがあったんだけど、ホピ子はお休みしてて走ってないの。季節的にだんだん気温が上がり、路面状況も厳しくなるなかでの鈴鹿戦だったから、チームは持ち込みタイヤの選択にあたって、鈴鹿テストに参加したGTA-GT300 規定車両のヨコハマタイヤユーザーのデータを参考にしたんですよね。

アタックに向かった冬悟くんは、計測3周目にベストタイムとなる2分00秒874のタイムをマーク。公式練習よりはしっかりタイムアップしたものの、このグループで12番手に留まりました。「上位陣とタイム差は縮まったものの、結果としては良くなかったですよ」と悔しそうな表情を見せました。続くQ2は、孝允くんがグループ2で走ります。公式練習時では、ほぼ冬悟くんドライブを任せ、チームと一緒にセッティングの見直しやタイヤの使い方などを話し合っていた孝允くん。計測2周目にアタックし、2分01秒253をマーク。このグループで4番手につけました。2選手のアタックラップタイムを合算した上で、最終的な総合順位はクラス22番手に。ある程度、覚悟はしていたものの厳しい結果でした。孝允くんも「タイヤとクルマの相性、方向性がちょっとまだ違う感じだった」とアタックを振り返っていたけれど、とにかくみんながセットアップに時間を割きたいと思っていた感じ。これからどんどん暑さが厳しくなるなかでのレースが待ち受けるだけに、クルマとタイヤの相性をしっかりと見極めて戦闘力を上げて行くために、たくさん課題が見つけれられた予選日でした。

迎えた決勝日の天気は下り坂。梅雨前線と低気圧の影響を受けているらしく、早朝の上空は薄曇り。サポートレース開催の前に、パラパラと雨が降ってきました。でも不思議と本降りにならず、すぐ止むんです。決勝レースを前にどう天候が変わるか、気がかりなホピ子。みんながんばって準備しているところにいきなり雨になったら、タイヤは替えなきゃいけないし、セットアップだって……とちょっとナーバス気味。でも、百戦錬磨なチームのみんなは、肅々と来たるべきときを前にやることを黙々とやっています。ホピ子もちょっと冷静にならなきゃ、

ですね（苦笑）。

なんとか天候も崩れることなく、決勝を迎えるのかなあと考えた矢先、急に音を立てて雨が降り始めました（涙）。しかもウォームアップ走行開始直前ですよ、直前！ みんなウエットタイヤを履いてコースインし、20分間のセッションでしなければならないことに取り組みました。ところがこの雨、本降りのように降ってる場所が実に断定的だったんです。メインストレートを走るときはワイパーが必要なんだけど、西コースに向かうと「雨!?どこで降ってるの？」って感じで。人騒がせていうか、なんていうか。当然セッション中はウエット宣言が出ていたんだけど、セッションが終わると雨がどこかに行ってしまう、また日差しが出てきたんです。スタート進行中、大勢の関係者やお客様がグリッドにお見えになったけれど、そのときにはもうコンディションがすっかり回復！ いったいあのウエット走行は何だったのでしょうかね。結局、午後1時30分からの決勝レースはドライでスタートが切られることになったのでした。

気温24度、路面温度31度のなか、3時間レースがスタート。ひと雨降ったことで、気温こそ前日より1~2度下がっただけだったけど、路面温度が激変。前日比で約10度低いコンディションでのレースになりました。これが結構影響を与えたみたい。GT500クラスの車両でも思うようにペースアップできずに厳しい戦いになったという声を聞いたけど、まさにホピ子もその状況下に置かれていたのです。

スタートドライバーは冬悟くん。タイヤをうまくコントロールしながら戦うなか、ひとつ、またひとつとポジションアップを目指します。開始から40分くらいしたときにポツポツ雨が落ちたものの、崩れることなくレースは進行。チームはスタートから1時間経過する前にピットインすることを決め、27周終わりにホピ子をピットに戻しました。タイヤ交換と給油はしたのだけれど、冬悟くんが継続してそのままダブルステイントでコースに復帰。ニュータイヤになったから、どのくらいタイムアップするのか気になったホピ子だけれど、実際のところは大きな変化もなく……。ただ、冬悟くんは19番手までポジションを上げて周回を続けていたのでした。

2回目のピットインはレース開始から1時間50分を過ぎたあたりのタイミングで実施。ちょうど50周終わりのときです。この頃になると、気温は26度、路面温度は36度と逆に日差しを受けてコンディションは上昇していました。コース上はタイヤカスなどで路面が汚れてきているので、さらにドライブには注意が必要です。フルサービスでドライバーが孝允くんになったわけですが、ホピ子のペースはやっぱりピリッとしないまま……。結局、最後までずーっと“何か”が足りないまま走り続けることになりました。タイヤって開発することで、良いものを作っているはずなんだけど、じゃあ何が“良くなった”のか、そこがキモなんですよ。進化したとしても、クルマ、路面にマッチしなければ、なんにもならない。そう、しっかりと戦えないんです。今回も無事に3時間レースを走り切ることができたホピ子だけ、まだまだみなさんに“戦うホピ子”を見せるまでには至ってないのかな、という感じ。武士監督もなんだか消化不良のような難しい顔つきでサーキットから帰路についたようです。

このあとSUPER GTは第4戦富士開催まで、ざっと2ヶ月という長いインターバルに入ります。この間、レースで得たデータをしっかり分析し、タイヤとの相性をさらに良くするための策を講じなければなりません。7月にタイヤメーカーテストが宮城・スポーツランドSUGOで行なわれるので、そこでしっかりと走り込んで、速く、強くなるための“何か”をみんなに見つけてもらいたいと思うホピ子です。それでは、夏の富士でまたお目にかかりましょう！

■レースを終えて

【菅波 冬悟】

今大会は、昨年高パフォーマンスを発揮することができた鈴鹿サーキットでの開催となり、前大会の結果を踏まえてマシンの方もアップデートを施して挑みましたので、期待の高まるレースでした。

しかし、走り始めからパフォーマンスに大苦戦する厳しい展開となりました。苦しい状況の中でしたが、コツコツと改善できるポイントを模索して、今まで分かっていなかったことも理解出来ましたので、次戦以降に活かしたいと思います。

次戦の富士大会はインターバルが開いての開催となりますので、インターバルを有効活用してより高いパフォーマンスを発揮できるように頑張ります。今大会も応援ありがとうございました！

【松井 孝允】

3戦目となり車への理解も進み相性の良いサーキットなので期待して挑みました。

走り始めてトップになるには何が足りないかはハッキリとわかりましたが、現場のアジャストでは及ばず悔しい結果となってしまいました。

車の足りないところ、タイヤの足りないところ、チーム、ヨコハマタイヤさんと共に今後へのレベルアップを測り良い結果をみんなで掴みにいきます。

たくさんの応援ありがとうございました。引き続き応援宜しくお願い致します。

【佐藤 公哉】

皆様、今大会もたくさんの応援ありがとうございました！

今大会は体調不良で決勝でドライブすることはありませんでしたが、次戦に向けて苦しい状況を脱するように、このインターバルでビッグステップを踏んでチームの力になれるように最善を尽くしていきたいと思います。

引き続き応援宜しくお願いいたします！

【土屋 武士監督】

今回の鈴鹿ラウンドは、ヨコハマタイヤ最上位の予選5位を獲得したサーキットとして、前半戦の山場として挑んでいました。残念ながら思ったような速さもリザルトも残せず、応援していただいている皆さんの期待に応えられなかったことは本当に申し訳ない気持ちです。原因としては今年投入されている新構造のタイヤが、うまく機能していなかったことですが、開幕から3戦を経て、じっくりとタイヤは見極められたので、その検証結果の元、次戦以降に向けては新たにタイヤ開発をしていくことを、ヨコハマのエンジニアと合意したところです。幸い、3位にヨコハマタイヤユーザーが入ったので、そのタイヤをベースに進めていきます。

技術開発というのは正しい根拠に基づき、一つ一つ丁寧に積み重ねていくことでしか活路は見出せない、長年レースをやっていて分かっていますので、昨年途中から走っていない分の遅れを取り戻すべく、次戦富士の前に合同テストがスポーツランド菅生で行われるので、しっかりと走ってデータを積み上げていきたいと思っています。

3戦しっかりと完走できたことはポジティブですが、ここからは貪欲にリザルトを獲りに行きたいと思っています。

今回もたくさんの応援をありがとうございました！次戦も変わらぬ応援をよろしくお願いいたします！！

【問い合わせ先】

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当： 土屋・佐々木